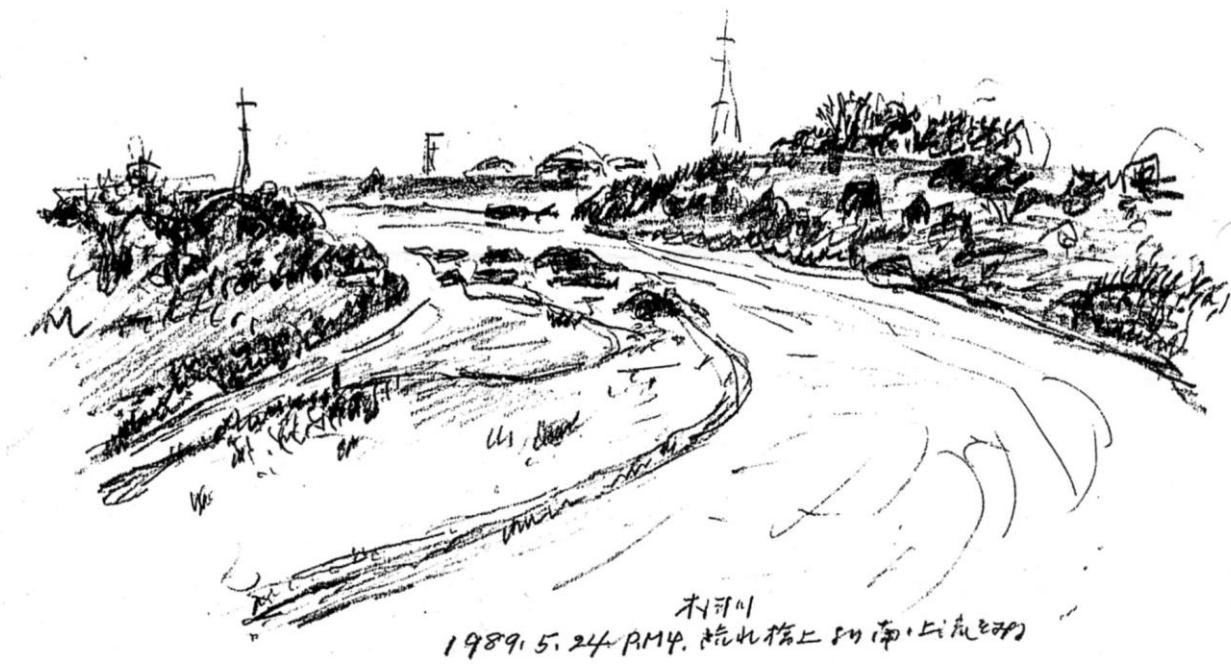


(1) 1993年10月20日

燎 原

第90号



「燎原」事務所 602 京都市上京区智恵光院竹屋町上ル 品角方 TEL 075-811-3265

## 農民運動散歩記(六)

品角一郎  
(遺稿)

### 豊栄の活動

この「農民運動散歩記」は、故品角一郎氏（一九一一～一九八一年）が、その最晩年に死に至るまで書きつづけられていたものである。

すぐれた画家であり、民主的な詩人でもあった品角氏は、一九四六年から約十年間農民運動に携わっていたことがある。日本農民組合京都府連合会の泉隆書記長のもとで、書記として京都府連の再建と発展のために活動されたのである。この記録はその当時の思い出を書きつづられたものである。

品角氏がこの「散歩記」を書かれるようになったのは、一九七八年の夏に、当時私どもがやっていた京都府の農地改革史に関する研究会で、品角氏に敗戦直後の農民運動についての思い出を語って貰ったことがきっかけ

になっている(この研究会の成果は、京都府農地改革史編纂委員会編「京都府農地改革史」一九八〇年刊、にまとめられている)。本文にも書かれているような事情から、日農京都府連に関する資料が焼失してしまっていだため、関係者から当時の農民運動の状況についても聞き取りを行うことになったのである。

この中では、品角氏が農民運動にかかるようになった事情人々が五、六名あった。この時、女性の参加者から、笑いながらであったが、辛辣な言葉が私たちにあった。それは「共産党の人々に花と桜をあげたい」と云う言葉であった。実際にきびしい批判である。こんなことがあった翌日、集団入党式を部落の集会所でひらいたことがある。その後、野間、豈栄、間人と合同の党組織の交流会を開いたことがある。

体験的農民運動史として、農地改革期(一九四五～五〇年)の農民運動を知る上で、貴重な資料となりうるであろう。

(立命館大学教授 大蔵輝雄)  
(九二・九・二〇稿—再録)

ところで間人へいく途中に豊栄がある。ここには丹後地区委員をやっていた岡田君が住んでいた。岡田君はよく農民のなかにはいり、こつこつ農民運動と党活動をつづけていた。この村へは一九四八年(昭二三)の夏文化工作ではいり、豊栄小学校の講堂で演説会をもつたが講堂一杯の聴衆であった。そのあと座談会に二、三十名の人々がのこり、入党決意した人々が五、六名あった。この時、女性の参加者から、笑いながらであったが、辛辣な言葉が私たちにあった。それは「共産党の人々に花と桜をあげたい」と云う言葉であった。実際にきびしい批判である。こんなことがあった翌日、集団入党式を部落の集会所でひらいたことがある。その後、野間、豈栄、間人と合同の党組織の交流会を開いたことがある。

木津まで書いてきたから熊野郡について書くことにする。

熊野郡神野には山崎忠次氏が住んでおられた。日農京都府連執行

### 網野・木津の活動

この工作活動の際私たちは間人について書くことにする。

### 熊野郡での活動

木津まで書いてきたから熊野郡について書くことにする。

熊野郡神野には山崎忠次氏が住んでおられた。日農京都府連執行

委員をしておられた。私が神野の山崎忠次氏の家を訪ねたのは、党の文化工作隊がこの村にはいる前であった。訪ねたのは五、六回であつたと思う。日農京都府連と関係ができたのは、終戦直後の土地問題がキッかけで、「泉隆さんにいろいろと御世話になつた。それが動機で組合をつくった」と話された。

一九四八年（昭二三）の夏、党

の文化工作隊が久美浜小学校で演説会を開催し、その晩、文化工作隊十一名は久美浜小学校から徒步で山崎忠次氏宅で宿泊した。久美浜へ行く途中に御世話になることを依頼して工作隊は久美浜小学校へいったが、大変な迷惑をこの時おかけしたものである。

終戦直後で、党に対する空気は今と違つて風当りが強い時期であったが、山崎氏は、工作隊を親切に泊めてくれたのである。これは本当に勇気のいることであったと思つてゐる。

熊野郡では日農府連の農民組合は川上村、神野村、海部村、佐濃村、田村に組織されていたが、これは泉隆氏がこつこつと組織されたものである。泉氏は農民がよぶところへ実際に気安く出掛けては組

で、ふれておかねばならぬのは川上村と田村である。農民問題、土地問題で実によく闘争をやつたのは青年層の活動であつた。また田村には白岩享君という青年がいたが、農民の先頭に立つて闘つていた。よく府連の事務所へ二、三名の青年と顔をみせ、泉隆氏の指導を直接うけ、日農支部を組織していたことを憶えている。

奥丹後の熊野郡方面は土地も狭く、終戦後土地問題は農民の切実な要求であり、それはまた封建的土地制度との闘いであつたと思われる。この点、南山城地方とは若干相違があつたのである。南山城があり、戦後の農地改革は案外早く進んだが、南山城では強制供出米問題、米価問題、税金問題の闘争が激しくやられたのである。

### 加悦町後野の活動

加悦の後野は、宮津線の丹後山田駅から私鉄の加悦鉄道に乗つていくとその終点が加悦駅である。この加悦鉄道は実に牧歌的で、長い煙突から煙をはいて、マッチ箱のような客車を二、三輛連結して

鐵で、IDつてこられた。このなかで、どうなつてゐるか全然知らなかつて、後野は駅から少し行つたところにある。

その後野には大江昂君、大江鉄雄君、杉本利一君等がいた。大江鉄雄君は現在町会議員をやってゐるが、その頃は元氣の良い青年であった。私が彼に出会つた頃はまだ党組織はできていなかつたが、私が訪ねると、いつも四、五名の若い連中が集まつて、農民の暮しを話していた。やがて党組織は大江鉄雄君を中心にして、農民の税金、供出その他のことが話された。特にここでは農業技術のことがよく討議されたことをおぼえてゐる。

大江君やその他の青年は、「こんな時期に食糧増産のことを研究したり、話したりすると、反動的大だと思われるかも知れないが、農民にとつては、このことは一番大切なことだ」と話していた。私はこの食糧増産の意見には賛成し、その頃話題になつてゐた4H運動とは異つて、麦間直播のことを話しこそを奨めた。4H運動の農耕は、土質が問題で、「その土は

田圃のなかを走つてた。いまはどうなつてゐるか全然知らなかつて、私が話した麥間直播を大江君たちは研究した。またミチューリン農耕も奨めた。ミチューリンを戦後研究はじめたのは、この加悦町後野の大江君を中心とする青年の集まりであつたと思う。その後の集まりでは、日ソ協会の理事長をやっておられた山内年彦先生の努力によるところがおおきいと思われる。山内先生は京都市近郊の久世か横大路辺に試験場を作つて実践指導をやっておられた。その頃、日ソ協会から依頼でミチューリン生誕百年記念に、私は壁掛け製作してソビエートに贈つたことがある。

この加悦後野では、大江鉄雄氏らが中心に、日農支部が組織された。結成大会には地区委員長の長壁民之助氏に私も参加した。さらに丹後市場では一九四七（昭二二年）山本与一郎氏を中心にして日農京都府連の支部が組織され、強制供出、不当割当に対する闘争がおこなわれたことがある。これはたしか、平嘉一郎氏が中心でなかつたかと思う。

ない」と大江君たちは話している。私が話した麥間直播を大江君たちは研究した。またミチューリン農耕も奨めた。ミチューリンを戦後研究はじめたのは、この加悦町後野の大江君を中心とする青年の集まりであつたと思う。その後の集まりでは、日ソ協会の理事長をやっておられた山内年彦先生の努力によるところがおおきいと思われる。山内先生は京都市近郊の久世か横大路辺に試験場を作つて実践指導をやっておられた。その頃、日ソ協会から依頼でミチューリン生誕百年記念に、私は壁掛け製作してソビエートに贈つたことがある。

この加悦後野では、大江鉄雄氏らが中心に、日農支部が組織された。結成大会には地区委員長の長壁民之助氏に私も参加した。さらに丹後市場では一九四七（昭二二年）山本与一郎氏を中心にして日農京都府連の支部が組織され、強制供出、不当割当に対する闘争がおこなわれたことがある。これはたしか、平嘉一郎氏が中心でなかつたかと思う。

### 長壁民之助のこと

ところで、ここですこし長壁民之助のことについて述べておくことにする。なぜならば、丹後の労働者、農民、市民と長壁民之助は実際にいろいろな面で深い関係があるからである。

長壁氏は与謝郡旧市場村幾地の生れで一八九九(明治三二)年二才頃大阪に出て、造船工、鉄工所の労働者などをやり、労働組合に入り、一九二二(大正一一)年には労働組合の常任活動家になつてゐる。日本共産党が一九二三(大正一二)年第一次弾圧をうけ、一九二五年に日本労働組合評議会が創立されたが、長壁氏は大阪木材労働組合を結成しており、その書記長をつとめていたがこの評議会に参加した。一九二六年三月創立した労農党に長壁氏も参加し活動をつづけていた。

長壁氏は、丹後震災の時は郷里に帰つており、そこで弟重郎氏と共に労農党と謝郡支部結成のために努力していた。丹後震災の時被

災者救済にとりくんだり、義捐金配分にかかわる醜状を暴露して、村委会解散のビラを無届けでまいて罰金刑に処せられたことがあつた。

長壁氏は三・一五で弟重郎氏の逮捕をうけ、労働者の前衛党である共産党的任務の重要性を知り、一九二九(昭和四)年日本共産党に入党した。一九一八年、三・一五の弾圧があり、つづいて大山郁夫の労農党、無産青年同盟、日本労働組合評議会が弾圧、解散をうけ、天皇制政府と支配階級は治安維持法を死刑法にまで改悪し、特高警察を強化する一方革命運動の破壊を企図し、国民の自由を弾圧し強化してきたのである。そして、この年の春、山本宣治を右翼分子の手によって虐殺したのである。長壁氏が入党した一九二九年はまた日本プロレタリア作家同盟が結成された年でもあるが、一九二九年(昭和四)年四・一六で日本共産党は天皇制の弾圧をうけた。長壁氏も検挙され、懲役六年の刑をうけ、一九三五年(昭和一〇)出獄。

この年七月フランスでは人民戦線が結成され、翌年国内では二・二六事件が起き、国際的には、スペイン内戦、日独防共協定、日中戦

争勃発と実に一步一步暗黒の時代に突入する時期であった。

長壁氏は、この年(一九三六)

大阪木材労働組合を再建しその委員長として活動を続け、また党再

建に努力していたが、十二月人民戦線事件で検挙され、四年の刑を

一九三八年(昭和一三)にうけ、禁令によつて西陣産業と丹後織物が壊滅的打撃をうけた時であつた。

長壁氏が東京から丹後に帰つたのは、一九四四年(昭和一九)六月であった。

この長壁氏に私がはじめて出会つたのは、一九四六年(昭和二一)の春頃だったと記憶している。人

民解放連盟丹後支部の事務所が宮津の西村四郎氏宅にあった。

そこには西村四郎氏をはじめ、

井上公作、沢村秀夫、池辺純一、

故奥田茂雄、三津屋須善、太田武夫の諸氏が集まつたが、ここ

に集まつた人々は党再建と同時に

身につけておりながら、いつも巻

あと丹後地区委員会は沢村氏の宅に移つた。一九四六年春の戦後第一回の総選挙には、京都府全体(二区制)で、安田徳太郎、小林為太郎、太田武夫(典礼)の三氏が立候補したが、丹後地区としては太田氏に力を注いでいた。長壁氏もこの選挙の先頭で活動していた。

私も太田氏とは戦前の昭和十年頃から知りあいもあり、太田氏のためにこの時の選挙には活動してゐた。

その頃宮津には文化サークルの「北星会」があつた。この組織はば広い組織であり、芸術・学術、その他思想啓蒙活動を展開していたが、この時の選挙には共産党と共によく活動したが、太田典礼氏の一九四七年(昭和二二)共産党からの脱党と同時に分裂がおこり、党の立場にたつた人々は、その後自由懇話会と同時に分裂があるのである。この組織には宮津の文化関係の人々が多数参加していた。

長壁氏は終戦後宮津駅前の製材所、「平和組」(これは峰山在住の池辺純一氏が経営していた会社であつた)に勤務しておられたので、

この事務所とか、党事務所でよく会つて話した。長壁氏は背広を

脚絆をまき、地下足袋をはいていた。みるからに労働者のスタイルである。話しづりは低い声で訥々と相手を説得するように話した。

ところが演壇にあがると実に堂々たるもので、迫力のある演説で聴衆を魅する力があった。あれはたしか、一九五〇年三月の党主催の三・一五記念集会であった。会場は鳥丸丸太町下る新聞会館。この時、記念講演を長壁氏にやつてもらったことがある。「自分は四・一六で検挙され、投獄された体験はあるが、三・一五で検挙をうけたのは弟の重郎で、弟は四・一六でも逮捕され、拷問のため吐血し、保釈。再検挙をうけ獄中生活をしていたが病が重くなり刑の執行停止となつて丹後に帰った。一九三一年七月二三日に死んだ。三・一五の党弾圧は日本の労働者階級の前衛党に対する弾圧であつた。」と前置きして、実際に堂々たる演説を一時間程つづけられたものである。私は舞台の横で長壁氏の話を聞いていた。

この記念講演をたのみに丹後の四辻に行つたのは私であったが、長壁氏は「そんなことは僕の柄ではない」と、かたく断わっていたが、強引に説得して承知してもらふことを憶えている。

長壁氏は敵にとつては恐ろしい悦、その他の村を廻つて長壁氏に情況を報告すると、長壁氏は私の後を歩いて、荒削り工作の仕上げをキチンと仕上げてくれたもので、いつも感謝していた。また、こんなこともあった。「おい、品角君、一足先に帰るぞ」といって汽車にのり、山村の朝鮮の同志の家に立ち寄つて焼酎を買って帰つて、私を待つていてくれたことが度々あった。

長壁氏は私にとつては親父のようなものであった。だからなんでも一身上のことでも相談ができる。第一線から離れてから長壁氏は毎月一、二回は京都に出てきてその都度私の家に泊まつて帰つた。家にくると、おとうちゃん、おかあちゃん、と呼んでいた。こんな長壁氏を、亡くなつた私の母が大変好きで、長壁氏の話をよくしていたことがある。ある年には市場村の長壁氏の家へ一ヶ月程遊びに行って大変お世話になつてよろこんで帰ってきた。また、その時市場村の隣村の岩屋村までいつ

### 長壁氏と私

私が、よく野間、五十河、加悦、その他の村を廻つて長壁氏に情<sup>マヨ</sup>况を報告すると、長壁氏は私の後を歩いて、荒削り工作の仕上げをキチンと仕上げてくれたもので、いつも感謝していた。また、こんなこと也有つた。「おい、品角君、一足先に帰るぞ」といって汽車にのり、山村の朝鮮の同志の家に立ち寄つて焼酎を買って帰つて、私を待つていてくれたこと

(以下次号)

## 生涯を労働者として

### 南区の田中豊藏さんの活動

語り手 田 中 豊 藏

聞き手 湯 浅 貞 夫

八、「高瀬のオッサン」

取り締まるような顔をして実は私たちを監視していたんです。  
栗山千吉さんはだめ菓子屋とホルモン屋をして、ゼンマイやモツを売つていましたが、これはたべられたもんやない。それで犬にやる。犬は喜んでこれをたべ丸々ふとつてゐました。表では暴力を

て、五十年振りに生郷の墓に参ってきたといつてゐたことがあります。

長壁氏は敵にとつては恐ろしい人物であったが、われわれにとつては実によき同志であり理解者でもあり、指導者でもあった。若い同志には囁んでふくめるように話をしていた。また若い連中は、恋愛問題や、家庭問題まで相談をもちこんでいたものである。ある時は逮捕状の出でいる同志を、長いあいだ世話していたこともあつた。



村委員長が連絡にきたとき犬がほえるのです。石館直三くんが来たときも犬がほえるのです。警察が来ても知らん人がきてもほえる様にしてあるんです。それで私は言つてやりました。

「赤旗のうたを歌いなさい」  
学生がはしって逃げて來た。  
「民衆の旗、赤旗は……」、一ぺんに犬がほえなくなりました。いつも「民衆の旗、赤旗は」をうたう人からホルモンをもらっているからです。犬も同志だと思ってほえないんです。

栗山宅は、店がバクチ場になる時もありました。壁がやぶれて隣の家と抜ける所がありました。私達がホルモンをたべに行って警察に踏込まれた時です。壁の奥に寝ている奥さんの枕元を「ごめんやす」といって通り裏から逃げたこともありました。「あゝ高瀬のオッサンか」といっていました。私は高瀬川のほとりで馬車屋をやっていましたから「高瀬のオッサン」で通っていました。

終戦後、私は坂根甚左エ門に出会ったことがあります。あの労働運動史を書いた渡部先生のことです。私は「早川など買収して労働者を弾圧して……よいかげんにせ

え」と言つてやりました。坂根は特高をやめて大阪の田村駒の労務係に出世していきました。この坂根が早川の引立人です。私はこのことをはじめていいます。

#### 九、戦争中を生きて

湯浅 もう戦後の話になつていますが、戦争中はどの様になさつていましたか。

田中 評議会が解散、全協に入りました。全協は非合法でした。

しかし弾圧がきびしく東山の坂本

時三さんや山内さんのようなボス的な人は活動していましたが、若い活動家はほとんどやられ、皆んなになりました。

私も四人の子をかかえて生活が苦しく沈黙ですね。

大阪の栗本鉄工にかよい、機械運搬などやっていました。それで私もスペイが私の出勤途上、京都から大阪までついているんです。手

も足も出せません。尼崎にもいきましたが苦しいもんでした。

#### 十、千本自労に入つて

田中 私はそれから生活のため千本の失対に入り、自由労働組合の活動をやりました。私は戦前から労働運動をやって、ですから、

やとか、河上肇先生のお嬢さんなどが活動しているということをだれとなく聞いていました。レポートとしてね。バットのタバコの箱を交換したりして活動していらっしゃるときいていました。

#### 湯浅 兵隊はどうでしたか。

田中 一九四四年（昭和十九）私は伏見の野砲隊に召集されました。迫撃砲で米軍の上陸を迎え打つと称して、潮岬の近くにある和歌山県鳴神のある寺において終戦を迎えました。寺の名前は忘れました。

終戦になつて大変嬉しく思いました。「もうこれで私達の時代がくる、思う存分活動ができる」と思いました。

昭和二十年九月十日に帰京したんです。母親が喜んでくれました。「弟が一人も戦死してしまつたが、お前が帰つて来てうれしい」とね。八三才まで生きてくれました。

戦後はやく、浅井花子さん、久保一雄さん、寺田五郎さんなど日常生活のメンバーが共産党再建活動をやられましたが、私も日常生活によくおじやましてその活動を見ました。私の近くに関電（日発）にいた勝山周一さんがいました。

私は、この勝山さんに推薦され一九四七年日本共産党に入党しました。丁度野坂が中国から帰国して春日校で演説会があつた時です。

私は終戦後兵隊から帰つて、また荷物の運搬の仕事にかかるのですが、上鴨の貯金局の裏手でフット表札を見たら「小寺卯一」と書いてあるんです。それで私は家の中へ入つて行つたんです。彼は七

やとか、河上肇先生のお嬢さんなどが活動しているということをだれとなく聞いていました。レポートとしてね。バットのタバコの箱を交換したりして活動していらっしゃるときいていました。

#### 湯浅 戰前の日本無産党の人は戦後は日本社会党に入るんではな

いですか。

田中 いや、私は三・一五事件の時を思つても、社会民主主義や右派の方はきらいで日本共産党にいきました。

時間が守るし正直なもんで皆んなが銅なんかもつてかえりましたが私等はそんなことしません。仕事にはよくあります。

そして市に対する闘争をよくやりました。

条警察署長をしていましたが、特高追放で刑事をやめていました。

「一寸おじゃまします。敬意を表しに参りました。七条署ではたびたびお世話になった田中です。散髪もしてもらいましたし、差し入れもしてもらつたし、ありがとう御座居ました」と皮肉たっぷりの挨拶をしてやりました。

そうすると小寺は、お礼参りにこられたと思うてビックリしていました。「おゝ田中か田中君か、だれやと思った。又あそびにきてくれたまえ」私は「こんなところへ二度とこれません」といつてやりました。

### 十一、九十年の年輪

湯浅 労働者として階級的立場をハッキリしてこられたんですね。

田中 私は若い時から労働者階級として苦労してきましたからね。今日も湯浅さんと久し振りにお話が出来ると勇気凛々、私の労働運動史の一こまを話せると思いましてやってきました。

湯浅 南地区委員会の中松委員長からも連絡をいただき、たのしみにやつて来たのです。よいお話をきかせてもらいました。そして

田中 さんは何か資料になるようなものをおもちですか。

田中 それはあったのですが、今はありません。三・一五事件のときは池上伴治に差入れをして逮捕されました。そしてガサを喰いました。

田中 それから昭和十三年の日本無産党事件の時は、御飯のおひつの中に文書を入れとおいてたすかりました。

田中 これで三ヶ月やられましたが、日本にきて留学していた中国要人の息子や、上海大学の学長さんの息子さんが、私と同じ警察に逮捕されました。

田中 前はショウジヨウコウと言いましたが、警察を出てからこの中国人に日本人で中国への侵略戦争に反対している私達の気持ちを伝えるべく、河上肇先生の経済学の本や貧乏物語を無償であげたんです。

田中 それで今は、何ももっていませんが、胸の中にはたたき込んでありますから、いくらでも話せます。

田中 今日はその内の何分の一かをお話させていただきました。大変うれしく思います。

田中 私は今年で九十才になりましたが、南区の共産党の本野哲郎さん

や三双順子さんを古くして頑張つております。

湯浅 本当に御苦労さんです。

三双順子は私の実の妹です。いつもお世話になりありがとうございます。もう一度時間をとりましてお話をうかがいたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

（完）

×

×

×

×

×

対談ののち、昭和十三年、日本無産党から立候補された時の様子を改めて聞きとりましたので、補遺として以下に収載します。
---

### 戦争に反対して

湯浅 昭和十三年の京都市会議員選挙のことについてもう少しくわしくお話し下さい。

田中 私は、昭和十三年の九月に日本無産党で立候補いたしました。先にも話しました様に妻が織物工で十年余り働いてためた金を貸してくれまして立候補したのです。日本無産党は京都では力が弱いし、だれを候補に選ぶべきかがなかなかでした。

京大の吉岡さんが駒井英之助君から、私の闘争歴を聞かれて応援して下さったのです。「戦争反対」を言うだけで中止検束です。毎夜七時から演説会です。西九条の大通寺、大内小学校、吉祥院小学校と各会場をまわりました。こでは梅小路駅の運送店の労働者が多勢来てくれました。大変力強く思いました。

西九条小学校では岡山県会議員中原健三氏（後に代議士）、大阪の安島氏が来て下さいました。京都では南善蔵、高沢仁三吉、臼田英雄、全水の池岡君も。そして杉谷君が選舉事務長でした。弁士の加藤勘十代議士が西九条三々クラブでやった時は九月二十日の夜七時からでしたが、会場は超満員、五百人があつまり外まであふれました。

社会大衆党は近くの小学校で富吉栄二代議士が来ており五六十人のあつまりでした。社大党的水谷長三郎代議士は、私に「田中、社大党にこい、当選さしてやる」といわれました。私は「立場がちがう、労働者をうち切った者に助けをかりて出世はしたくない」と申しました。水谷に近い人が「田中君、堅いこと言う時代ではない。来いといわれたら入党すれば君の

